

同窓生が語る宮澤賢治

盛岡高等農林学校と松田甚次郎・宮澤賢治(1)

松田甚次郎と宮澤賢治との接点及び農学別科・第一拓殖訓練所

若尾 紀夫 (C昭39・院41)

はじめに

農学部附属農業教育資料館(第2展示室)に「松田甚次郎」の資料が展示されている(写真1)。

[松田甚次郎著作関係の展示資料]

- ・野に起て(言霊書房:昭和17年・コピー)
- ・村塾建設の記(実業之日本社:昭和16年・コピー)
- ・土に生きる(民衆文庫)(社会教育協会:昭和13年)
- ・土に叫ぶ(羽田書店:昭和13年)
- ・続 土に叫ぶ(羽田書店:昭和17年)
- ・新しき生活の建設 見前・二十一会猛士の会(昭和16年)
- ・日記帳1号 鳥越共働組合 昭和8・9年度
- ・日記帳2号 鳥越共働組合 昭和10年度
- ・日記帳3号 鳥越共働組合 昭和11年度
- ・鳥越共働組合
- ・北の台地のシンフォニー —土に叫ぶ人—:近江正人作
- ・寂光 一素直な土—:最上共働村塾 思い出の文集

長い間、その展示を見ていたが特段気に止めていなかった。この度、本報をまとめるに当たり、改めて展示資料を調べたところ、松田甚次郎と宮澤賢治

とは深く関わっていることが分った。何故、当資料館に松田甚次郎に関する多くの資料があるのか。誰がどのような経緯でそれらの資料を収集したのか。色々と疑問がわく。

旧本館が農業教育資料館として正式に発足し、館内展示の整備と公開が行われたのは、昭和53年頃である。平成12年9月発行の「岩手大学農学部附属農業教育資料館展示資料目録(農業教育資料館運営委員会発行)」に当時の展示資料の一覧が記載されている。その中には既に松田甚次郎の展示資料が記録されており、現在まで全く同じ展示が引き継がれていることが分った。恐らく、資料館の公開展示が行われた当初、松田甚次郎の資料が収集されたものと思われる。

松田甚次郎(甚次郎と略称)とはどのような人物か。盛岡高等農林学校とどのような関係があるのか。松田甚次郎は賢治と何時どのように出会ったのか。下調べの結果、2人の出会いは、甚次郎が盛岡高等農林学校の農学別科に在学した時であり、甚次郎は賢治の影響を受けて郷里新庄で村おこし活動を実践し、農民生活の向上と農村文化の向上に生涯をかけて取り組んだ。

賢治と甚次郎の思想や活動はやがて農学部における「営農技術大学」構想、そして「岩手農民大学校」

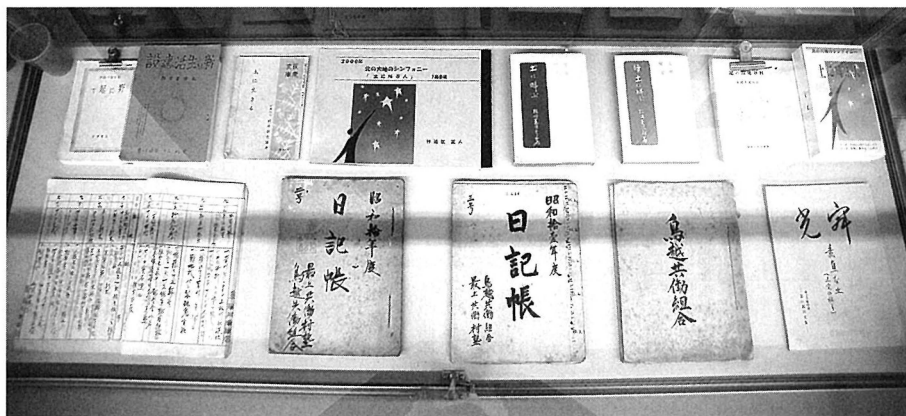


写真1 農業教育資料館で展示されている松田甚次郎資料

へと繋がることになる。

本報では、甚次郎と賢治との接点・関係性をみるために、2人の履歴（略年譜）を作成し対比考察し、甚次郎が学んだ盛岡高等農林学校の農学別科について記載した。更に盛岡高等農林学校の歴史上過渡的教育制度（昭和8年～昭和21年）であった第一拓殖訓練所についても記録として付記した。

松田甚次郎とは、そして賢治との関係は（プロローグ）

表1及び表2は、夫々賢治及び松田甚次郎について文献資料（3, 6-9, 12, 13, 14-17）を調べた略年譜である。それに依ると賢治と甚次郎の年齢差は13歳であり、賢治は37歳で、甚次郎は35歳の若さで亡くなっている。賢治からみると甚次郎に関する記載は僅か2項目（昭和2年）であるが、甚次郎の年譜をみると、彼は生前の賢治を幾度か訪ね、また賢治が亡くなった後も花巻や盛岡等を頻繁に訪れている。

山形県新庄の豪農の生まれである甚次郎は、大正15年に盛岡高等農林学校の農学別科に入学し、盛岡で青春の1年を過した。農学別科に入学したことが賢治との出会いの切っ掛けとなり、甚次郎の生涯を決定付けたと言える。

甚次郎が賢治との出会いでどのような影響を受けたのかなど、甚次郎の生涯については、次報以降で論述するが、本報では、殆どの人が知らないであろう「甚次郎が勉強した農学別科」について特記する。

農学別科の設置と変遷

盛岡高等農林学校の設置から15年後の大正6年12月、文部省令で当校規程が改正され、農学別科の設置（大正7年5月10日）が決まった。この年には、農学第1部及び農学第2部は、それぞれ農学科及び農芸化学科と改称された。

盛岡高等農林学校一覧（1）によると農学別科の学則は以下のである。

第2学則（旧漢字は常用漢字で表記）

第一章 総則

第一条 本校ハ農業林業及獣医ニ必要ナル高等ノ教育ヲ施ス所トス

第二条 本校ニ農学科、農芸化学科、林学科、獣医学科ヲ置キ之ヲ本科トシ別ニ研究生、

選科生及農学別科生ヲ置クコトアルヘシ

第六章 農学別科生

第四十二条 農学別科ハ作物、園芸、畜産、養蚕、農産製造等ニ関シ実地ニ経営セントスル者及実地指導ノ任ニ当ラントスル者ニ必要ナル學術技芸ヲ授クルモノトス

第四十三条 農学別科ノ修業年限ヲ一ケ年トシ四月ニ始マリ翌年三月終ル

第四十四条 農学別科ニ入学ヲ許スヘキ者ハ甲種農業学校卒業以上ノ学力ヲ有シ入学検定（口頭試問、体格検査）ニ合格シタル者トス

第四十五条 農学別科生ニシテ修業中ノ成績適当ナリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授与ス

農学別科設置の目的は、作物・園芸・畜産・養蚕・農産製造等に関して実地経営する者（農業従事者）や実地指導に当たる者（農業指導者）に必要な知識技術を教授するためである。修業年限は1ヵ年、当初の入学定員20名、甲種農業学校（当時）卒業以上の学力を有する者が対象であった。

全国各地から資産家や豪農の子弟等が盛岡に集ってきた。農学別科の第1回入学生（大正7年）は20名（修業生17名）であった（10）。

当初の授業科目は、作物学及育種学・園芸学・畜産学・養蚕学・植物病理学・昆虫学・土壌及肥料学・農業経済学・林学大意・英語・数学・実習及実験である。

昭和5年に農学別科は農学実科と改称され、昭和13年、農学実科とは別に農村工業実科が並列設置された。盛岡農林専門学校時代（昭和19年）になり、農業専修科（昭和21年）及び農村工業専修科（昭和21年）が1年間、過渡的に設置された（図1）。

盛岡農林専門学校から岩手大学農学部（昭和24年）になり、昭和26年、農学別科は農業専修と農村工学専修の2専修となる。更に昭和42年には農村工学専修は酪農専修と改称され、農業専修と酪農専修の新体制となる（図1）。

このように農学別科は、その設置理念に基づき実践的農業教育によって農業経営者（農業後継者）と農業指導者の養成を行ってきたが、時代に応じて幾度か改組され教育内容（授業科目や時数など）も変遷した。

ところが農学別科は学科独自の施設や設備を持たず、また別科専任教官もなく、その教育指導は附属農場教職員や附属農場兼任教官（学部）の献身的な

表1 宮澤賢治及び盛岡高等農林学校・関豊太郎教授の略年譜

和暦	西暦	年齢	時期	宮澤賢治	盛岡高等農林学校・関豊太郎教授
明治29	1896	0歳	8月27日	・稗貫郡花巻川口町（現花巻市）で出生	
明治31	1898	2歳	11月15日	・妹トシ出生	
明治35	1902	6歳	4月		・盛岡高等農林学校設置
明治36	1903	7歳	4月	・花巻町立花巻尋常高等小学校に入学する	（農学科・林学科・獣医学科）
明治38	1905	9歳	8月		・関豊太郎教授着任 （地質及土壤学教室）
明治39	1906	10歳	8月	・父親の始めた第9回「夏期仏教講習会」に参加する ・鉱物採集・昆虫標本作りに熱中	
明治40	1907	11歳		・鉱物採集に熱中し「石っこ賢さん」と呼ばれる	
[盛岡中学校時代]					
明治42	1909	13歳	4月	・盛岡中学校（現盛岡第一高等学校）入学 ・鉱物岩石採集に熱中	・農学科2部制 第1部（農学科）・第2部（農芸化学科）
明治43	1910	14歳	6月	・岩手山初登山（中学2年）	
明治44	1911	15歳	8月	・盛岡市北山、願教寺で島地大等の法話に参加する	
明治45	1912	16歳	6月	・平泉・石巻・仙台方面に修学旅行	・本館（現農業教育資料館）竣工
大正2	1913	17歳	3月	・舎監排斥で4・5年生全員が退寮	
			4月	・賢治は盛岡市北山、清養院（曹洞宗）に下宿する	
			5月	・北海道修学旅行	
大正3	1914	18歳	3月	・盛岡中学校卒業	
			4月	・鼻炎手術で岩手病院に入院する	
			6月	・退院帰宅、家業を手伝いながら盛岡高等農林学校受験の準備	
[盛岡高等農林学校本科生時代]					
大正4	1915	19歳	4月	*盛岡高農農学科第2部（農芸化学科）首席入学 ・自啓寮に入る。登山・鉱物岩石の採集に熱中 ・妹トシ、日本女子大学家政部予科に入学	・関豊太郎教授との邂逅
大正5	1916	20歳	3月	・東京関西方面修学旅行	
			7-8月	・盛岡附近地質調査（賢治クラス12名）	・関教授の指導
			9月	・秩父地方地質旅行	・関教授と神野助教授引率
大正6	1917	21歳	4月	・盛岡中学に入学した弟清六と盛岡市内に下宿する	
			7月	・同人誌「アザリア」発刊（小菅健吉・保阪嘉内・河本義行）	
			8月28日	・江刺郡地質調査（高橋秀松・佐々木又治も同行）	
[盛岡高等農林学校研究生時代]					
大正7	1918	22歳	3月15日	*盛岡高等農林学校（本科）卒業・得業論文提出	・古川教授と関教授の指導
			4月	・盛岡高農研究生として引き続き在学	・農学別科の開設
			5月	・盛岡高農実験指導補助を囑託される	
			4-9月	・稗貫郡地質及土性調査に従事・稗貫郡地質調査報告書を提出	
			12月26日	・妹トシ入院との報せで母親と上京、翌年3月まで滞京	
大正8	1919	23歳		・東京で人造宝石の製造販売の職業を計画するが、父親の反対で断念する ・退院したトシに付き添い帰郷、家業（古着質屋の店番生活）の手伝い ・東京での自立の夢実現できず質屋の店番生活に戻る	
大正9	1920	24歳	5月	・盛岡高農（研究科）研究生修了	・関豊太郎教授の転出（7月）
			8月24日	・実験指導補助の解除	（東京西ヶ原農事試験場土性部）
			9月	・妹トシ、母校花巻高等女学校教諭心得となる	
			11月	・上京し国柱会に入会	
大正10	1921	25歳	1月	・無断で家出し上京、国柱会で奉仕活動	
			4月	・上京した父親と伊勢京都奈良方面へ旅行（6日間）	
			9月	・妹トシ、病気のため花巻高等女学校を辞す	
[花巻農学校教師時代]					
			12月3日	・稗貫郡立稗貫農学校教諭（旧郡立農蚕講習所・後の花巻農学校）	
大正11	1922	26歳	1月	・心象スケッチ「屈折率」「くらかけの雪」を書き「春と修羅」制作開始	
			9月	・農学校にて劇「飢餓陣営」を初演、生徒6名と岩手山登山	
			11月27日	・妹トシ死去（24歳）「永訣の朝」「松の針」「無声慟哭」を書く	
大正12	1923	27歳	1月4日	・上京中の弟清六を訪ねる	
			7月	・農学校生就職依頼のために青森、北海道經由樺太旅行へ出発する 「オホーツク挽歌」等挽歌群の創作	
			12月25日	・上京して図書館に通い、映画・演劇を鑑賞	

和暦	西暦	年齢	時期	宮澤賢治	盛岡高等農林学校
大正13	1924		4月	・「春と修羅」自費出版	
			5月	・生徒を引率して北海道修学旅行 帰校後、北海道修学旅行復命書を提出	
			8月	・農学校生徒と「飢餓陣営」「植物医者」「ボランの広場」など上演	
			12月1日	・イーハトーブ童話「注文の多い料理店」の刊行	
大正14	1925		1月	・三陸旅行	
			4-6月	・知人数人に「教師を辞めて百姓になる」という旨の手紙を書く「帰農の決意」	
			11月	・イギリス海岸でバタグルミ化石を採集	
大正15	1926	30歳	1-3月	・岩手国民高等学校で「農民芸術論」を講義 「農民芸術概論」「農民芸術概論綱要」「農民芸術の興隆」	
昭和元年			3月31日	・花巻農学校を依願退職 下根子桜の別宅で独居自炊生活	
			4月1日	・岩手日報「農学校を辞し新しい農村の建設に努力する宮澤賢治」の記事	
			5月	・開墾や音楽の練習、レコードコンサートを始める	
			6月	・「農民芸術概論綱要」の草稿	
[羅須地人協会時代]					
			8月	・羅須地人協会を設立、11月頃から定期的集会 農民に土壌・肥料・稲作等の指導を行う 近郊に無料肥料設計事務所を開設（肥料設計2千余枚を書く）	
			12月2日	・チェロを持って上京、上野図書館やタイピスト学校で勉強 オルガン・チェロの練習、エスペラント語を学習する	
			12月29日	・花巻に帰郷	
昭和2	1927	31歳	2月1日	・「岩手日報」夕刊に羅須地人協会の記事を掲載 社会主義運動との関係を疑われて警察の事情聴取を受ける（アカ狩り） 以後、羅須地人協会の集会は不定期になり下根子桜から撤退	
			3月8日	*農学別科の修業をひかえた松田甚次郎が来訪、生涯の教訓を与える 松田甚次郎の訪問を受け、帰農後「小作人たれ、農民劇をやれ」と激励する	
			8月8日	*松田甚次郎が自作の農民劇「水涸れ」（賢治が命名）をもって訪問	
			11月	・チェロ勉強のため上京し3ヶ月滞京	
			12月	・盛岡中学『校友会雑誌』に詩を発表	
昭和3	1928	32歳	1月	・滞京中病気になる帰花する	
			6月13日	・伊豆大島旅行（伊藤兄妹訪問）、「三原三部」を書く	
			8月10日	・過労により発熱病臥。羅須地人協会を中断する	
			12月	・体の酷使のため病（急性肺炎）に倒れ自宅療養	
昭和4	1929	33歳	4月	・東北砕石工場主鈴木東蔵が賢治を初来訪し交際が始まる	
			11月	・鈴木東蔵との書簡の往復始まる	
昭和5	1930	34歳	9月	・陸中松川の東北砕石工場を初訪問	・農学別科が農学実科と改称 （昭和5年～昭和26年）
[東北砕石工場技師時代]					
昭和6	1931	35歳	4月	・東北砕石工場技師嘱託、石灰販売に奔走・販売宣伝	
			9月19日	・炭酸石灰宣伝で上京中に発病倒れ、父母あて遺書を書く	
			9月25日	・自宅に戻り療養生活（帰宅療養）	
			11月3日	・「雨ニモマケズ」を手帳に書く 病中で肥料設計の相談、炭酸石灰の販売業務を続ける	
昭和7	1932	36歳	3月	・「グスコブドリの伝記」を発表、病床で砕石工場や肥料設計の相談に対応	
昭和8	1933	37歳	8月	・病状悪化にもかかわらず農民の肥料相談に応じる ・短歌二首絶筆 ・「国訳妙法蓮華経」千部刊行頒布の遺言	・第一拓殖訓練所の設置 （昭和21年3月廃止）
			9月21日	*賢治逝去（享年37歳）	
			9月23日	・宮澤家菩提寺の安浄寺（浄土真宗）で葬儀 ・宮澤家は日蓮宗に改宗、賢治墓所は花巻市の身照寺に移される（昭和26年）	
昭和17	1942		3月		・関豊太郎退職（73歳）
昭和19	1944		3月		・盛岡農林専門学校と改称
昭和24	1949		6月		・岩手大学（農学部）開学
昭和26	1951		3月		・盛岡農林専門学校の閉校
平成21	2009		3月		・農学別科の廃止

表2 松田甚次郎の略年譜

和暦	西暦	年齢	時期	松田甚次郎
明治42	1909	0歳	3月3日	・山形県最上郡稲舟村大字鳥越字駒場（現新庄市）にて大地主の長男として誕生
大正4	1915	6歳	4月1日	・新庄町立日新尋常高等小学校入学
大正12	1923	14歳	3月	・同上小学校卒業
			4月	・山形県立村山農学校入学
大正15	1925	17歳	3月	・同上村山農学校卒業
昭和元年			4月10日	*盛岡高等農林学校・農学別科に入学する（同期入学生21名）
昭和2	1926	18歳	2月1日	・賢治の新聞記事：2月1日付け「岩手日報」「農村文化の創造に努む」
			2月1日	*花巻下根子桜に賢治を訪問する（初回）
			3月8日	・早魃に苦悶する岩手県柴波郡赤石村を見舞い、南部煎餅を子供達に配る
			3月8日	*須田仲次郎と花巻の賢治を訪ね、生涯の教訓を受け感激して帰郷（2回）
			3月15日	*盛岡高等農林学校農学別科を終業する
			4月	・郷里山形新庄に帰村し、父親より六反歩の土地を借りて小作農民となる
			4月25日	・鳥越倶楽部の結成
			8月8日	*農村劇の指導を受けるため賢治を訪問、題名「水涸れ」は賢治が命名（3回）
			9月10日	・土舞台を作り農村劇「水涸れ」を実演する
昭和3	1927	19歳	4月	・茨城県友部の日本国民高等学校へ入学：農業に基礎を置く「農本主義」を学ぶ
			不明	*花巻に賢治を訪問する（4回目）
昭和4	1928	20歳	1月	・日本国民高等学校卒業
			3月	・鳥越倶楽部女子部を結成する
昭和5	1930	21歳		・母の会を結成、農村母子の保健厚生運動を行う
			9月15日	・農村劇の実演
昭和6	1931	22歳	2-3月	・大日本聯合青年団指導員養成所、第1回生として入所する
				*賢治から手紙を添えて「春と修羅」が贈られる
昭和7	1932	23歳	5月10日	・北村山郡横山村寺崎效太郎次女睦子と結婚、甘酒で神前式を挙げる
			8月	・麴室を作り醤油、味噌麴を部落内を一手に引受ける
			8月14日	・「最上共働村塾」の設立と開講（第1回）：羅須地人協会をモデルとする
			12月	・全国篤農青年大会に山形県代表として出席する
昭和8	1933	24歳	1月	・高松宮家より有栖川宮記念更生資金（第1回）を受ける
			3月20日	・塾生5名と共に第2回開塾、塾舎建設にのり出す
			9月21日	*賢治逝去（享年37歳）
			10月	・鳥越記念隣保館の落成
昭和10	1935	26歳	6月	・農繁期共同炊事を始める
昭和11	1936	27歳	4月	・日本スキー発達史撮影隊ファンク博士一行に協力し農村劇の効果を推賞される
			6月	・共同浴場の建設と利用の開始
昭和13	1938	29歳	5月	・「土に叫ぶ」出版（ベストセラー）、中央社会事業協会より文献賞を受章
			8月	・「土に叫ぶ」が新国劇一座により東京有楽座で上演：好評
			11月13日	*花巻の「雨ニモマケズ詩碑」に詣で、著書「土に叫ぶ」を捧げる
昭和14	1939	30歳	1月10日	・塾舎「土に叫ぶ館」の落成
			3月7日	・羽田書店より甚次郎編集「宮澤賢治名作選」出版、文部省推選となる
			3月22日	*花巻の南城振興共働村塾開塾の開催に当たり訪花する
			9月8日	*花巻の賢治詩碑を訪ねる（最上共働村塾々生と東北旅行の折）
			11月7日	*水沢にて「農村指導員講習会」の講師
昭和15	1940	31歳	2月	*塾生と花巻旅行（24-25日）、花巻農学校及び赤石小学校で講演（26日）する
昭和16	1941	32歳	1月1日	・「村塾建設の記」の出版
			3月12日	・山形放送局より「新しき生活の建設」を全国放送する
			9月28日	・最上共働村塾十周年記念式を挙げる
昭和17	1942	33歳	3月1日	・「野に立て」の出版
			9月2日	*盛岡農学校で講演する
			9月21日	*花巻賢治忌に出席する
			11月	・朝鮮旅行（10日間）
			12月15日	・「続・土に叫ぶ」の出版
昭和18	1943	34歳	3月13日	*宮澤家を弔問（岩手最上の会）する
			7月8日	・雨乞祈願八ッ森登山、病床につき再起不能となる
			7月27日	・新庄町楠病院に入院
			8月4日	*楠病院にて逝去（享年35歳）
			8月6日	・佛式にて葬儀が行われる
			9月5日	・部落会と最上の会共催の追悼会開催
			11月26日	・最上共働村塾の閉塾

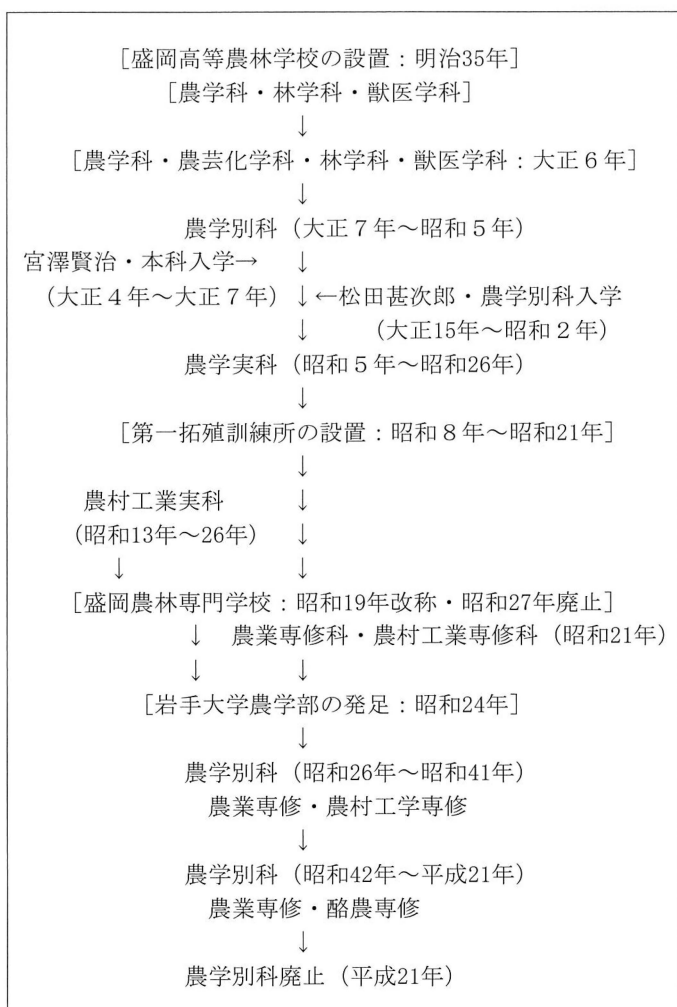


図1 農学別科の変遷

努力によって支えられてきた。また別科独自の講義や実習の他に、本科生徒との合同講義や農学科・総合農学科との合同実習も取り入れられた(10)。

昭和30年代になると入学志願者が減少する傾向がみられ、各県に農業大学校や農業講習所・営農学園など農業後継者の教育施設が設置されると、減少傾向に歯止めがかからなかった(10)(図2)。特に昭和40年代以降は、農学別科(農業専修・酪農専修)の入学生は平均7.5名(昭和42年から平成21年)に落ち込み、平成12年以降になると平均1.5名で志願者ゼロの年もあった。

* 盛岡高等農林学校及び盛岡農林専門学校の入学生数(10)

- ・ 農学別科(大正7年～昭和5年)：26.5名
- ・ 農学実科(昭和5年～昭和26年)：36.6名
- ・ 農村工業実科(昭和13年～昭和26年)：28.4名

* 岩手大学農学部

- ・ 農学別科(農業専修・農村工業専修)
(昭和26年～昭和41年)：16.6名
- ・ 農学別科(農業専修・酪農専修)
(昭和42年～平成21年)：7.5名
(平成12年～平成21年)：1.5名

このような志願者の激減に対応するため、平成8年頃から農学部において農学別科の改革について議論されてきたが、結局、平成21年に農学別科は92年の歴史を閉じることになる(10)。その間、

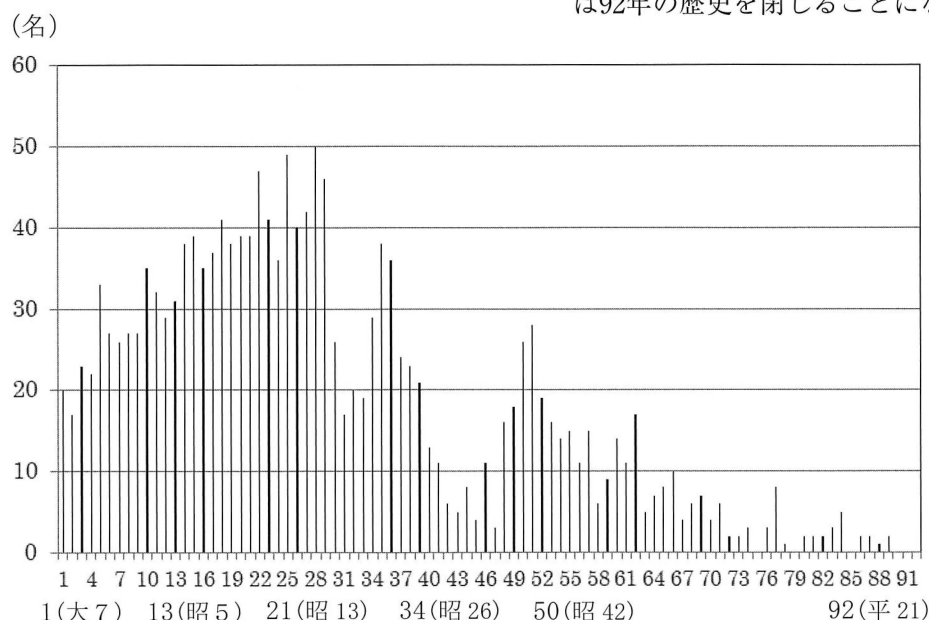


図2 農学別科における入学生数の推移(大正7年から平成21年)

1(大正7)：農学別科、13(昭5)：農学実科、21(昭13)：農村工業実科、34(昭26)：農業専修・農村工学専修、50(昭42)：農業専修・酪農専修、92(平21)：別科廃止

農学別科の修業生（農村工業実科も含む）は約1,800名にも及び、全国各地において活躍している。

ここで時計の針を松田甚次郎が入学した大正15年に戻し、その当時の農学別科の状況を記す。

基本的には設置当時（大正7年）の規則とほぼ同じであるが、授業科目は開設時とは大分異なっている（表3）（2）。因みに、この年の入学生は21名（修業生：19名）である。講義や実習の内容から、農学別科では農業経営に必要な農学専門分野全般は勿論、修身・公民・教育・国語・法学・農業法規まで幅広く教授していることが伺える。

第三 農学別科生

- 四十五條 農学別科ハ実地ニ経営シ又ハ農民ヲ指導シ以テ農村ヲ振興セシメトスルモノニ必要ナル學術技芸ヲ授クルモノトス
- 四十六條 農学別科ノ修業年限ヲ一ケ年トシ四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル
- 四十七條 農学別科ニ入学ヲ許可スヘキ者ハ農学校卒業（一省略）以上ノ学カラ有シ入学検定（口頭試問、体格検査）ニ合格シタル者トス
- 四十八條 農学別科生ニシテ修業中ノ成績適当ナリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授与ス

附則

本則ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際現ニ第二学年以上ニ在学スル学生ニ課スヘキ学科目及其ノ程度ニ関シテハ新旧学科課程ヲ斟酌シテ之ヲ行フ

表3 農学別科の授業科目と時数（大正15年）

授業科目	毎週教授時数	
	第1学期	第2学期
修身及公民科	2	2
教育学	3	3
国語	3	3
作物学及育種学	3	3
園芸学	2	3
畜産学	2	
養蚕学	2	
植物病理学	2	2
土壤肥料学	2	
農具論		2
法学通論	2	2
農業法規		3
経済学原論	2	2
農業経済学	2	2
農産製造及食品化学	2	2
計	29	29
農場実習	無定時	無定時

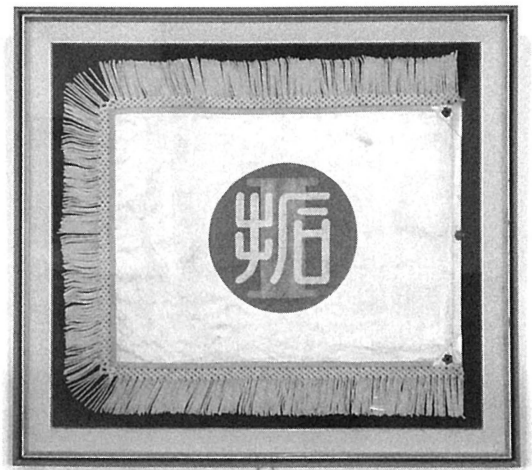


写真2 第一拓殖訓練所の旗（所旗）

第三 農学別科ニ関スル規程

農学別科生ニ課スヘキ授業科目及時数左ノ如シ（表3）

文部省第一拓殖訓練所

（昭和8年～昭和21年）

今まで触れることがなかった「第一拓殖訓練所」（写真2）について付記する。

「将来満蒙、北支ノ地ニ於テ農業移民ノ指導者、農業移住者又ハ農業技術者タラントスル志願ノ確実ナル者ニ心身鍛練ヲ施シ、日本精神ヲ涵養シ、堅忍不拔ノ気魄ト勤勉力行ノ習慣ヲ養イ以テ他日成功ノ基礎ヲ得セシムルヲ以テ目的トス」（文部省告示第203号）（4, 11）

このように満州・蒙古や南米方面における農業移民の指導者・農業従事者・農業技術者などの養成を設置目的として、昭和8年4月28日、盛岡高等農林学校に第一拓殖訓練所（満蒙方面：満蒙に移住し農業に従事せんとする者に須要なる技能を授け心身の訓練を施す）が附設された。

場所は秋田街道に沿った岩手県御明神村（現岩手県雫石町御明神）にある御明神経済農場（現農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターFSC・御明神牧場）で、橋場線（現田沢湖線）の春木場駅から南へ直線で大凡3キロの地点に位置する（図3）。

当時の岩手日報（昭和8年4月6日）に「移植民教育は我が国教育制度として初めて樹立された。」とあるように、拓殖訓練所は我が国の対外政策として過渡的に設置された移植民教育制度であり、昭和

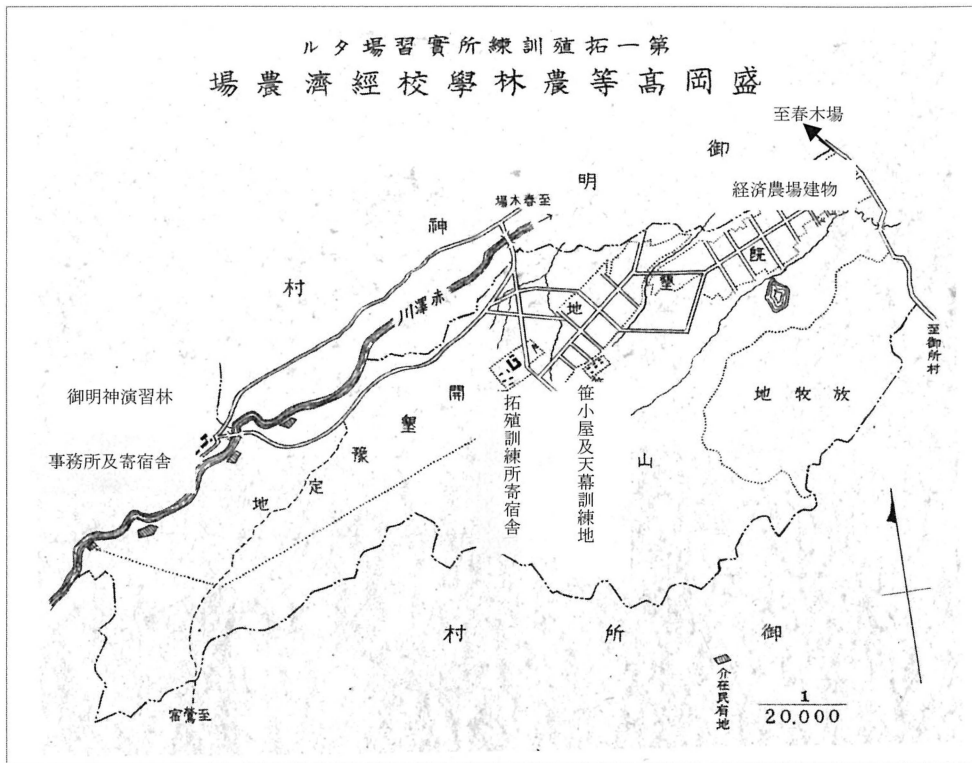


図3 第一拓殖訓練所があった御明神経済農場（現御明神牧場）の略図
橋場線（現田沢湖線）春木場駅からアクセス（昭和10年）

21年終戦とともに廃止された。

因みに、三重高等農林学校には第二拓殖訓練所（満蒙方面：同上）及び宮崎高等農林学校には第三拓殖訓練所（南米方面：南米に移住する者を対象とする）が附設された。拓殖訓練所は「拓訓」、個別には「第一拓訓：一拓」・「第二拓訓：二拓」・「第三拓訓：三拓」と略称された。

一拓では、昭和8年6月11日に開所式と第1回生の入所式が行われた。入所資格（学歴）は実業学校卒業程度以上で、年齢は満18歳以上30歳以下で、第1回生入所者は30名である。昭和21年3月の廃止まで13回、265名の修了生が送り出された。

教育期間は1年間で、寄宿舎での自給自足の生活を通して「心身の訓練」と「実習重視」の教育が行われた。教育科目は、修身及び公民科、移民地事情（満蒙事情）、移民地経営、移民指導精神、耕種、畜産、農用機械、農産製造、農業経営、簡易測量、簡易土木建築、外国語（満州語）、殖民地衛生、保険、為替、教練及び武道、特別講義、実習作業等である（4, 5, 11）。

開設から2年後の昭和10年2月に、御明神経済農場内に新しい寄宿舎「明真寮」（建坪96坪の本屋と20坪の附属舎）（写真3）が竣工し、生徒等は当初から仮入寮していた御明神演習林寄宿舎から明真寮に移転した。また自給自足訓練として笹小屋や幕営での宿泊も行われた。

現在、明真寮の建物は取り壊され残っていない。岩手大学における第一拓訓の痕跡は、明真寮の前庭に建立された「明真寮跡」の石碑（写真4）だけである（4）。

碑文：

昭和八年より同二十年まで 盛岡高等農林学校に附置された 文部省第一拓殖訓練所の修了生二六五名 この地を巢立ち 世界に飛び 北に南に 沃土を拓く 気高く 土に生きた 若き世代を偲ばん 美しい青春を守る 明日の糧に

参考資料

- 1) 盛岡高等農林学校一覧（大正6年～7年）
- 2) 盛岡高等農林学校一覧（大正15年～16年）
- 3) 年譜 宮沢賢治伝：堀尾青史著、図書新聞社（昭和41年3月）
- 4) 盛岡高農附設 文部省第一拓殖訓練所略史：一拓会編集（昭和53年6月）
- 5) 岩手大学農学部75年史：作道好男・作道克彦編、教育文化出版、263-266（昭和54年7月）
- 6) 年表作家読本 宮沢賢治：山内修編著、河出書房新社（昭和64年9月）
- 7) 「賢治精神」の実践—松田甚次郎の共働村塾—：安藤玉治、人間選書165、農文協（平成8年5月）

- 8) 拡がりゆく賢治宇宙—19世紀から21世紀へ—：宮沢賢治イーハトーブ館、147-152（平成9年8月）
 9) 宮沢賢治—素顔のわが友—：佐藤隆房、桜地人館、268-282（平成12年10月）
 10) 岩手大学農学部百年史：岩手大学農学部、杜稜印刷、256-258（平成14年3月）
 11) 岩手大学農学部百年史：岩手大学農学部、杜稜印刷、305（平成14年3月）
 12) 松田甚次郎の仕事：北山裕子、でくのぼう宮沢賢治の会5号、でくのぼう宮沢賢治の会（平成15年12月）
 13) 私の賢治散歩（下巻）：菊地忠二、343-348（平成18年3月）
 14) <https://ja.wikipedia.org/wiki/>
 15) <http://www.dekunobou.com/kiken-opera/kiken-opera-matsuda.htm>
 16) <https://wpedia.goo.ne.jp/wiki/>
 17) <http://www.jmcy.co.jp/goto/Majime/higasiyumei/jinjirou/matudajinjiro.htm>

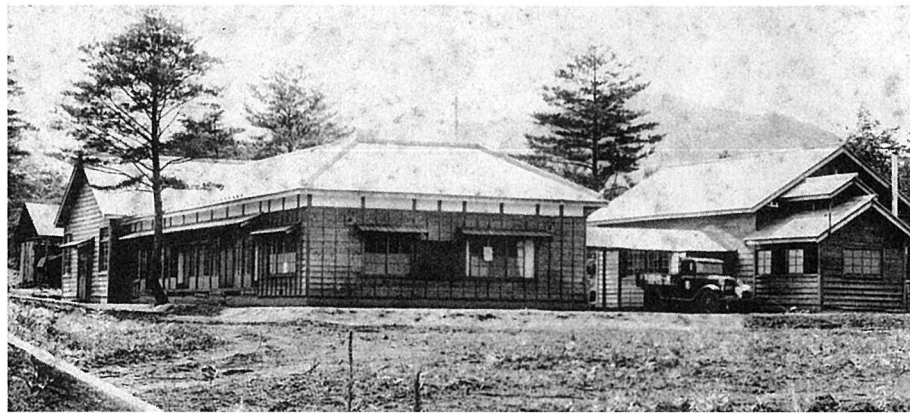


写真3 寄宿舍「明真寮」の建物
 本屋96坪と附属舎20坪（昭和10年2月竣工）



写真4 御明神牧場内の明真寮跡石碑
 題字「明真寮跡」：元第一拓訓主事 豊川武右工門書
 碑文揮毫：元岩手大学農学部長 石川武男教授
 建立日付：昭和53年6月15日
 （写真提供：FSC御明神牧場 平田統一准教授）